

## 1 目的

枠組壁工法においてより多くの国産針葉樹（地域材）を活用するとともに、耐震性を高めるため、国産材合板の厚さ、釘の種類と間隔等を変えることにより、倍率 3.5 を超える高強度耐力壁を開発する。

## 2 実施内容等

### (1) 事業の内容

- ①これまでの知見を基に高強度耐力壁の仕様を設計し予備試験を実施（於：東京大学）
- ②最終仕様を選定し評価機関にて評価（於：（財）日本住宅・木材技術センター）

### (2) これまでの取組み

木造軸組構法においては、合板厚さ、釘種類、釘間隔、仕様（大壁／真壁ほか）を変えた多くの耐力壁を開発し、国交省大臣認定を取得している。

### (3) 事業実施体制、実施経過

- ①実施体制：業界の技術者と外部の学識経験者等から成る技術委員会を組織し、実施する。開発における耐力壁の予備試験は公的研究機関等に、性能評価試験は認定機関に依頼した。
- ②実施経過：7 種類の高強度耐力壁の仕様を設計し、東京大学における予備試験の結果を解析して 4 種類の耐力壁仕様を決定し、（財）日本・住宅木材技術センターにて評価を受けた。なお、事故的水濡れと耐久性の評価（釘頭貫通試験と釘側面抵抗試験）を（財）ベターリビングに委託し、その結果を同センターに提出した。

## 3 実施結果

高強度耐力壁の評価を受けた。仕様と評価結果は以下の通りである。

合板			釘		倍率
樹種	厚さ (mm)	張り方	種類	間隔 (mm)	
オールスギ	12	片面	CN50	50-200	
			CN65	100-200	
				75-200	
				50-200	

## 4 成果と課題

評価書に基づき、国交大臣の認定を取得する。開発した耐力壁は（社）日本ツーバイフォー建築協会等を通して、普及に努める。